

日本母子ケア研究会第19回学術・実践報告会のご案内

テーマ

## 『産前産後の切れ目ないケアを目指して』

～気がかりなケースにどう対応していくのか～

近年、少子高齢化と核家族化・女性の社会進出に伴い、妊娠・出産・育児を取り巻く環境は大きく変化しています。さらに、出産の高齢化や不妊治療後の妊娠などにより、妊婦の不安もより大きくなってきています。

かつては大家族の中で伝承されていた育児が、初めて一人で立ち向かわなければならない、困難な事態になりつつあります。国を挙げて虐待や産後鬱への対応がなされ始めていますが、日本母子ケア研究会としてどう取り組むべきかが課題です。

今回、午前中は立川相互病院で妊娠中に行っている、6回以上に渡る保健相談での取り組みの実際を報告していただきます。ランチミーティングでは、みなさんの経験した気になるケースを出し合って、グループディスカッションを行います。

そして午後には最近広がってきている、産後ケアの現状報告、妊娠中からの関わりが功を奏した経験、また、意外にも手を掛け過ぎないほうが上手くいった経験などを発表いただきます。

皆さん、お誘いあわせの上ご参加ください。お待ちしております。

日本母子ケア研究会 会長 伊東厚子

日時	平成30年6月24日(日) 10:00 ~ 16:10 ※9:30 ~ 開場・受付開始
会場	横浜市健康福祉総合センター 4F ホール (裏面地図参照)
対象	看護師・保健師・助産師等医療従事者、母子支援に関わる専門職者
参加費	<b>事前申込【6/15(金)まで】 ¥12,000(年会費込) ※昼食はご用意します</b> <b>※当日参加 ¥15,000(年会費込)</b> 6/16(土)以降の申込については当日参加扱いとなります。 ※当日扱いの場合、昼食がご用意できません。ランチミーティングを行うため、各自ご持参ください。 詳細は裏面「申し込み用紙」をご参照ください。
特典	協賛メーカーより、サンプルのプレゼント

## 【プログラム】

10:00 ～ 10:10 会長挨拶 趣旨説明

10:10 ～ 11:45◆実践報告Ⅰ

「当院でのポイントチェックでリスクを共有する試み」

立川相互病院 春日 正美

虐待のリスクを少しでも減らすかかわりが出来ないか。という課題から大項目1点。小項目0.5点でチェックリストを作り活用しています。

今回は当院で使っているチェックリストの紹介と1年余り使用した中で浮かびあがって来た問題点を発表します。

【プロフィール】

東京都立公衆衛生看護専門学校 助産科卒業

総合病院、看護学校の勤務を経て

現在立川相互病院に勤務

看護師・助産師

11:45 ～ 12:00◆総会

12:10 ～ 14:00◆ランチミーティング 「私が経験した気になるケース」

14:15 ～ 14:35◆実践報告Ⅱ

「山形市における産後ケア事業の実態報告」

出張専門開業助産師 荒井 眞智子

わたなべ助産院 渡邊 節子

山形県における産後ケア事業について以下の三点を柱にご報告いたします。

①事業実施に至るまでの経過 ②委託を受けて実施してみて ③今後の課題について

【プロフィール】

荒井 眞智子

山形県立高等保健看護学院 教員

山形県立中央病院 NICU/GCU看護師長

山形県立新庄病院、山形県立中央病院 副看護部長を経て

平成20年より出張専門開業助産師「マミーズルーム」 現在に至る

渡邊 節子

山形県内総合病院に勤務し、産婦人科・NICU・GCU勤務

2007年山形市内に「わたなべ助産院」開設

パパママ教室・赤ちゃん訪問・助産師相談などの他ボランティア活動も継続して行っている

## 14:35 ～ 14:55◆実践報告Ⅲ

### 「子ども嫌いな母親の妊娠中からの関わり」

小山自然育児相談所 神崎 久美子

小山自然育児相談所では、授乳中の母親だけでなく様々な方が相談に見えます。

Hさんは、妊娠30週で来所。実母との関係があまりない状況がうかがわれ、「子どもが生まれたら自由な時間が少なくなりそうでつらい」「子どもが嫌いなので可愛がれるか不安」と話されました。私たちは、Hさんの妊娠中からの子育てが孤独にならず、生まれてくる赤ちゃんが健やかに育つよう体と心のサポートを続け、赤ちゃんは生後6ヶ月で卒乳しました。今回は、この母親との関わりを通して、継続してみていくことの大切さを考えてみたいと思います。

#### 【プロフィール】

慶應義塾大学医学部付属厚生女子学院卒業

栃木県立衛生福祉大学校保健学科卒業

慶應義塾大学に保健師として勤務

退職後市役所で乳幼児健診などの仕事に関わる

2009年から小山自然育児相談所勤務

保健師・看護師

## 14:55 ～ 15:15◆実践報告Ⅳ

### 「手間をかけすぎて、母乳率が下がる??」

～母子とのかかわり方・フォローについて 母からの感想も含めて考える～

ワイズレディスクリニック 梅原由里

当クリニックでは2週間健診・1か月健診があります。退院してから健診までの間にミルク量の調節や授乳練習が必要な場合、おっぱい外来に何回か呼んでフォローしていました。

諸事情がありおっぱい外来が今までと同じように開けなくなり、どうしようもないという方以外は健診でのフォローとなりました。するとどうでしょう…母の児への観察の目は以前よりも肥え、母乳育児への満足度は以前よりもアップしているような実感があります。その原因や現在の母達の退院後の育児環境、母乳育児への想いなどを考えてみたいと思います。

#### 【プロフィール】

福島県立医科大学看護学部卒業

川口市医療センター、済生会宇都宮病院勤務を経てワイズレディースクリニックに勤務

看護師・助産師・保健師

## 15:15 ～ 16:10◆ディスカッション

16:10 閉会